

2021年3月期 第1四半期決算説明(電話会議) Q&A サマリー

Q: 流体制御機器の売上高は前4Qが高い水準で、1Q実績、2Q予想は減少している。四半期毎の春日井工場と東北工場はどのような傾向だったか。

A: 春日井工場は、前4Qから1Qにかけて稼働が上がっております。東北工場は、前4Qから1Qにかけて稼働が下がりました。

Q: 現在の半導体投資環境をどのようにみているのか。

A: ロジックの設備投資は現時点では堅調に推移している。メモリーは、1Q後半から設備投資に遅延がはじまっており、4Qにかけて上がってくるとみております。

Q: 2Q、3Qではメモリー設備投資の比率が減っていくイメージでしょうか。

A: はい。現時点ではそのようにみております。

Q: 自動車や工作機向けの1Q実績は予想を上回ったが、空気圧機器の需要をどのように見通しているのか。

A: 国内の自動車、工作機は、ともに下期にかけて上がってくるとみております。また、海外では、中国を中心とした東アジアの1Qは高い実績となりましたが、2Qおよび下期は1Qに比べて落ち着くとみております。東南アジアは新型コロナウイルスの影響を受けて2Qは厳しく、下期にかけて回復してくるとみております。

Q: 海外は中国の影響が大きかったと話があったが、需要が回復しているということでしょうか。

A: 2年前に米中貿易摩擦が起きてから、昨年中国の需要環境は良くありませんでしたが、今年に入り良いかたちになってきています。3月から回復し、4月、5月は全業種で需要が増え、現状、足元も堅調です。

Q: CKD中国工場および四日市工場の状況

A: CKD中国工場は、新型コロナウイルスの影響で4Qの稼働は下がっていましたが、1Qは回復いたしました。また、空気圧機器を生産している四日市工場の稼働は高い水準が続いております。

Q: 自動機械の通期予想は保守的に捉えているのか。また、どのように見通しているのか。

A: 受注予想、業績予想ともに固くみております。今期は工事完了までの期間が長い物件が多く、また、注残にある海外物件も、新型コロナウイルスの影響により現地へ納入できないリスクを踏まえて、予想から除いております。

Q: 経費削減の考え方

A: 経費削減の取り組みとして、機器は製造固定費改善を見込んでおります。デジタル投資や自動化投資、改善活動の積み上げを行っていきます。自動機械は販管費を削減して、利益を上乗せしてまいります。

Q: 新型コロナウイルスの影響を2021年3月期通期予想にどれほど織り込んでいるのか。

A: 売上高で▲81億円です。自動機械で下期に▲21億円、機器で2Q、3Q、4Qそれぞれに▲20億円、合せて▲60億円の影響をみております。